

令和3年度
事務事業点検評価結果報告書
令和2年度実施事業

蕨市教育委員会

目 次

I	はじめに	1
II	事務事業点検評価の基本方針	1
1	目 的	
2	事務事業点検評価の対象及び方法	
3	事務事業点検評価対象事業一覧	2
III	事務事業点検評価の結果	3
IV	今後の取り組みについて	3
	令和3年度 事務事業点検評価シート	4
1	学びあい高めあう学校教育の充実	
1	教育内容の充実	
1	自ら学び自ら考える児童・生徒の育成	4
2	楽しい魅力ある教育活動の展開	5
4	学校給食の充実	6
5	特別支援教育の充実	7
6	教職員の指導力の向上と人材の確保	8
7	国際理解教育の充実	9
3	地域に根ざした教育の展開	
1	家庭・学校・地域の連携	10
4	家庭教育における意識の向上	11
2	生涯学習を支える社会教育の充実	
1	学習環境と学習機会の充実	
2	多様な学習機会の提供	12
4	図書館サービスの充実	13
6	家庭教育の支援	14
3	青少年の活動機会などの充実	
1	青少年の活動機会の充実	15
2	自然体験活動の充実	16
4	芸術・文化活動の振興	
2	芸術・文化活動の発表と鑑賞機会の充実	17
5	歴史・文化の保存と活用	
2	歴史民俗資料館における事業の充実	19
6	人権・平和意識の高揚	
3	市民の平和意識の高揚	20
3	どこでもだれもが親しめる生涯スポーツの充実	
1	スポーツ・レクリエーション活動の推進	
2	多様なスポーツ・レクリエーション機会の充実	21
2	スポーツ・レクリエーション推進体制の充実	
1	生涯スポーツを推進する体制づくり	22
2	スポーツ団体の支援と地域の人材活用	23

I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとなっています。

この報告書は、同法の規定に基づき、蕨市教育委員会が行った事務事業点検評価の結果をまとめたものです。

II 事務事業点検評価の基本方針

1 目的

蕨市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況を自ら点検評価し、効果的な教育行政の推進と教育目標の達成に資するとともに、その結果に関する報告書を議会へ報告し公表することで、市民への説明責任を果たし、より効率的で市民に信頼される公正で開かれた教育行政を推進することを目的としています。

2 事務事業点検評価の対象及び方法

蕨市教育行政の点検評価では、令和2年度からの5年間を計画期間とする第2期蕨市教育振興基本計画の「施策の展開・主な取り組み」の中から20の事業を選定し、令和2年度に実施した事業の取り組み状況及び成果、課題、今後の取り組みを踏まえ、実施しました。今回は第2期計画で行う初年度の点検評価であるため、計画の更新に合わせて、点検評価の実施方法等を検討し、評価シートの一部を変更いたしました。新たな評価シートでは、取り組みにおける効果と課題の観点で事業を検証し、コストと実績を勘案したうえで、取り組みに対する評価として、総括的に4段階評価を実施することといたしました。これにより、総括的でわかりやすい点検評価が実施できることとなっております。

なお、この事務事業点検評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する方など、外部の方々に、施策についての評価をいただくとともに、さまざまなご意見、ご助言をいただきました。

ご意見、ご助言をいただいた方々は、次のとおりです。

(敬称略)

氏名	所属等（現職等）
佐藤 一子	東京大学名誉教授
堀畑 敦睦	蕨市PTA連合会会長

事務事業点検評価対象事業一覧

基本目標	施策	施策の展開・主な取り組み	事業番号	事業名	
1 学びあい高めあう 学校教育の充実	1 教育内容の充実	1 自ら学び自ら考える 児童・生徒の育成	1	学校図書館教育支援員事業	
		2 蔵らしい魅力ある 教育活動の展開	2	少人数学級推進事業	
		4 学校給食の充実	3	食育の推進事業 (学校訪問栄養指導)	
		5 特別支援教育の充実	4	特別支援員配置事業	
		6 教職員の指導力の向上と 人材の確保	5	教育センター教職員研修事業	
		7 国際理解教育の充実	6	外国語教育等推進事業	
	3 地域に根ざした教育の展開	1 家庭・学校・地域の連携	7	学校応援団事業	
		4 家庭教育における 意識の向上	8	アウトメディア推進事業	
2 生涯学習を支える 社会教育の充実	1 学習環境と学習機会の充実	2 多様な学習機会の提供	9	地区生涯学習フェスティバル事業	
		4 図書館サービスの充実	10	図書資料の貸出(予約)事業	
		6 家庭教育の支援	11	家庭教育学級事業	
	3 青少年の活動機会 などの充実	1 青少年の活動機会の充実	12	わらび学校土曜塾推進事業	
		2 自然体験活動の充実	13	信濃わらび山荘管理運営事業	
	4 芸術・文化活動の振興	2 芸術・文化活動の発表と 鑑賞機会の充実	14	蔵市公募美術展覧会事業	
			15	音楽によるまちづくり事業 (蔵市民音楽祭)	
	5 歴史・文化の保存と活用	2 歴史民俗資料館における 事業の充実	16	特別展等開催事業	
	6 人権・平和意識の高揚	3 市民の平和意識の高揚	17	平和事業	
	3 どこでもだれもが 親しめる生涯 スポーツの充実	1 スポーツ・レクリエーション 活動の推進	2 多様なスポーツ・レクリ エーション機会の充実	18	スポーツ・レクリエーション推進事業
		2 スポーツ・レクリエーション 推進体制の充実	1 生涯スポーツを 推進する体制づくり	19	公共スポーツ施設予約システム事業
			2 スポーツ団体の支援と 地域の人材活用	20	スポーツ・レクリエーション 団体支援事業

Ⅲ 事務事業点検評価の結果

評価につきましては、各施策の目標が「達成されている」をA、「どちらかという達成されている」をB、「どちらかという達成されていない」をC、「達成されていない」をDとする4段階の評価で行いました。

なお、今回の点検評価では、イベントの実施や多くの参加者が集い実施する事業のうち、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施することが難しかった2事業（地区生涯学習フェスティバル事業・わらび学校土曜塾推進事業）については、事業の課題や今後の方針について点検評価を行いました。4段階評価のランク付けは行わないこととしました。

全20事業のうち18事業の外部委員評価は、下表のとおり、A評価が13事業、B評価が5事業となり、教育委員会が外部委員の評価に先立って行った担当課評価と、同様の評価結果となりました。

なお、外部委員評価では、目標達成に向けて、今後も各事業の改善や充実に取り組み、より積極的に施策を推進・発展させるよう求める意見が多く見られました。

基本目標 施策	担当課評価				外部委員評価			
	A	B	C	D	A	B	C	D
1 学びあい高めあう 学校教育の充実	6	2	0	0	6	2	0	0
1 教育内容の充実	5	1	0	0	5	1	0	0
3 地域に根ざした教育の展開	1	1	0	0	1	1	0	0
2 生涯学習を支える 社会教育の充実	6	1	0	0	6	1	0	0
1 学習環境と学習機会の充実	2	0	0	0	2	0	0	0
3 青少年の活動機会 などの充実	0	1	0	0	0	1	0	0
4 芸術・文化活動の振興	2	0	0	0	2	0	0	0
5 歴史・文化の保存と活用	1	0	0	0	1	0	0	0
6 人権・平和意識の高揚	1	0	0	0	1	0	0	0
3 どこでもだれもが親しめる 生涯スポーツの充実	1	2	0	0	1	2	0	0
1 スポーツ・レクリエーション 活動の推進	0	1	0	0	0	1	0	0
2 スポーツ・レクリエーション 推進体制の充実	1	1	0	0	1	1	0	0
合計	13	5	0	0	13	5	0	0

Ⅳ 今後の取り組みについて

蕨市教育委員会では、今回の外部評価でいただいたご意見、ご助言を事業の改善に生かしながら、『生きる力を育み ともに学び 未来を拓く蕨の教育』の推進に取り組んでいきます。

また、評価方法について見直しを図るなど、より分かりやすく的確に市民への説明責任を果たしていくことができるよう努めてまいります。

令和3年度 事務事業点検評価シート

事業番号	1	事業名	学校図書館教育支援員事業
		担当部署	学校教育課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	1 学びあい高めあう学校教育の充実
	施策	1 教育内容の充実
	施策の展開・主な取り組み	1 自ら学び自ら考える児童・生徒の育成

事業の内容	学区内の小・中学校を巡回し、司書教諭や図書ボランティア等と連携をしながら、図書に関する専門的な知識を基に学校図書館教育を支援する（図書の選書・学校図書館の整備・学校図書館を活用した授業の支援）。
-------	---

事業の対象	蕨市立小・中学校
-------	----------

事業の目的・目指すべき姿	学校図書館教育の充実を図るため、図書の選定・学校図書館の整備・学校図書館を活用した授業の支援を行う。
--------------	--

取り組みにおける成果・効果について

支援員の業務内容は、図書室の整備・選書、読書活動推進への企画・授業等について、司書教諭と連携を図りながら協力し、学校図書館教育の支援を行うことである。
 支援員配置することで、図書室が活発に利用されているとともに、教職員と連携し環境改善や工夫ある読書推進啓発に大きく貢献している。
 また、市立図書館の子ども読書活動推進計画事業の一環である小・中学生向けのブックリストの作成に協力し、児童・生徒の読書活動推進に寄与するなど、多くの成果を上げることができた。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	B
---------------	---	--------	---

参考指標	平成30年度（実績）	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（見込み）
1校当たりの活動日数（日）	62.3	37.5	62.5	62.5
児童・生徒1人当たりの貸出冊数（冊）	14.5	14.6	15.2	15.0
1校当たりの事業費（円）	374,724	283,000	407,961	438,615

決算額の状況	年度	平成30年度 決算額(円)	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 予算額(円)
	事業費	2,417,240	1,500,000	2,749,610	3,056,150
	人件費	1,330,000	1,330,000	1,330,000	1,330,000
	合計	3,747,240	2,830,000	4,079,610	4,386,150

残されている課題・今後の取り組みについて

平成25年度に始まった本事業は順次採用枠を拡大してきた。毎年、雇用面で賃金の向上を図っているが、支援員の志願者の確保が厳しい状況である。近隣市と比べると待遇面で差があることや、他市や図書館へ志願者が流れていることが原因と考えられる。今後も、近隣市の状況を把握しながら、待遇面の見直しを図っていく必要がある。
 また、現在は、2校に1名ずつの配置のため、支援員が常駐している状況ではない。1校当たりの活動日数や勤務時間等の検討を行うとともに、新規で採用された方と継続して勤務している方との連携を図る研修会を設定するとともに、図書室の環境を充実させるための研修も行いながら、課題を一つでも改善していきたいと考えている。

外部委員評価	評価結果	評価コメント
	A	子どもたちの深い学びにとって学校図書館は大きな意義を持つ。コロナ禍でも利用可能な学習資源として、資料の充実、利用の拡大を図っていくことを期待したい。支援員と教員間のコミュニケーション、支援員の気づきや要望を学校として受け止めることなど、運営上の配慮も重要である。／専門知識は、必ずしも現場で必要なものばかりではないと思われるので、現場で生かすこととリモートでできることと切り分ける必要がある。専門支援と現場に必要な専門知識を切り分け、効果的な運営体制を確立していく事業を期待する。

令和3年度 事務事業点検評価シート

事業番号	2	事業名	少人数学級推進事業
		担当部署	学校教育課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	1 学びあい高めあう学校教育の充実
	施策	1 教育内容の充実
	施策の展開・主な取り組み	2 楽しい魅力ある教育活動の展開

事業の内容	市費により教員を採用し、小学校第3～6学年における35人程度学級を実施する。
事業の対象	小学校第3～6学年のうち、県の基準による学級編制を行った場合35人を超える学級
事業の目的・目指すべき姿	小学校の学級編制の人数を35人程度以下とし、学級編制を少人数化することにより、学級担任の目が行き届いたきめ細かな教育指導を通して教育の質の向上させるとともに、業務の負担軽減を図る。

取り組みにおける成果・効果について

事業開始から11年間の経過し、本事業は市全体で定着している。学級担任の目が行き届くという点から児童への学習指導、生活指導の効果が高くなるため、事業の成果も大きい。平成30年度からは、教育センター主任指導員が巡回指導を行い、指導力向上を図っている。

- ・基礎学力の定着（特に、算数の基礎学力の定着）など様々な場面で、個に応じたきめ細かな学習指導ができ、改善や向上、定着が見られた。
- ・体験活動や発言機会等で児童が活躍する場を多く設定することができた。その過程で、個のよさを認め、励ますことができた。このことにより、児童の自己肯定感を高め、学習意欲を引き出すことができた。
- ・児童が人間関係を築く場面では、適切な支援ができ、よりよい人間関係作りを行うことができた。
- ・標準編制の学級数と比較して、教員の事務処理の時間が短縮され、連絡帳、ノート、作品の点検と評価、教材研究や授業準備等に費やすことができた。その結果、保護者との連携による指導や支援を行うことができた。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	平成30年度（実績）	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（見込み）
35人程度実施学級数 (3～6学年学級数合計)	70	71	70	69
35人程度学級実施率（%）	100 (市費実施学級数5)	100 (市費実施学級数6)	100 (市費実施学級数5)	100 (市費実施学級数4)
1学級当たりの事業費（円）	415,948	459,057	357,544	346,551

決算額の状況	年度	平成30年度 決算額(円)	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 予算額(円)
	事業費	25,806,377	29,283,049	21,718,113	20,602,000
	人件費	3,310,000	3,310,000	3,310,000	3,310,000
	合計	29,116,377	32,593,049	25,028,113	23,912,000

残されている課題・今後の取り組みについて

義務標準法の改正により、令和4年度以降の本市の少人数学級推進事業の在り方について研究を進める必要がある。本事業の有効性を一層高めるためには、優れた教員を該当校に配置することが肝要であるが、埼玉県南部地区では臨時的任用者の不足が課題である。令和2年度は、年度途中で市費教員の退職があり、学級担任の補充に苦慮した。少人数学級編制には、基本的に臨時的に任用教員を充てることになるため、適切な人材を確保するとともに、計画的な研修と、指導力の向上に努める必要がある。教員志望者への周知については、市のホームページへの掲載や教員免許を取得できる大学に対する募集要項やポスターの送付を引き続き行っていく。今後も採用と育成の両面から、市費教員の確保及び資質向上に努める。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	A	<p>コロナ禍のもと、社会的に少人数学級への関心が高まっている。蕨市が独自に少人数学級を実現していることは高く評価できる。他方、教員志望者は減少しており、臨時任用教員としての教員確保は容易ではない。少人数学級の魅力、モデル授業などを広報して大学との連携を広げるとともに、途中退職者などを含む人材確保に向けた広報にも工夫が求められる。／少人数学級は保護者側からも高評価、継続を期待したい。一方で、人材確保は非正規教員問題等として社会問題化しており、「教員を育てる力がある蕨市」となるような環境づくりを市が支援することを期待する。</p>

令和3年度 事務事業点検評価シート

事業番号	3	事業名	食育の推進事業 (学校訪問栄養指導)
		担当部署	学校給食センター

教育振興基本計画 での位置付け	基本目標	1 学びあい高めあう学校教育の充実
	施策	1 教育内容の充実
	施策の展開・主な取り組み	4 学校給食の充実

事業の内容	栄養士による食に関する指導の実施及び食に関する実践力を身に付けるための給食の献立募集
事業の対象	市内全小・中学校の児童生徒
事業の目的・目指すべき姿	児童生徒が、食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身に付け、適切な栄養摂取による健康の保持増進が図れるようにする。

取り組みにおける成果・効果について

コロナ禍の影響により、令和2年度は、生徒に食生活を振り返り、食への関心を高め、望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身に付けてもらうことを目的とした栄養指導は中学校1校1学年のみの実施となった。また、栄養バランスがとれた食事について自ら考え実践する「学校給食のメニュー作りにチャレンジ!」は、夏季休業期間中に給食献立を募集する取組みを予定していたが夏休みの短縮により中止とした。

コロナ禍においても目的を達成できるように、食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身に付け、適切な栄養摂取による健康の保持増進が図れるよう、毎月発行している給食だより以外にも栄養指導に代わる資料を送付するなどの働きかけを推進することやネット環境を用いて栄養指導を行うなどの工夫について検討する必要がある。

取り組みに対する担当課評価	B	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)
栄養指導回数 (回)	24	24	1	24
応募献立件数 (件)	505	542	0	500
-	-	-	-	-

決算額の状況	年度	平成30年度 決算額(円)	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 予算額(円)
	事業費	84,801	80,080	68,640	69,960
	人件費	1,241,000	1,241,000	1,207,000	1,200,000
	合計	1,325,801	1,321,080	1,275,640	1,269,960

残されている課題・今後の取り組みについて

栄養指導については、実施することにより児童・生徒がより食に関する知識を高められるよう内容の充実を図り、栄養教諭を中心として、学校・家庭・地域等が連携して食に関する指導の推進に努めていく。また、栄養指導を受けて児童・生徒がどのように感じたのかアンケートなどができるよう今後学校側と協議していく。応募献立については、応募件数が年々増加傾向にあり、食材や作業工程等の関係で全てを採用することは難しいが、児童・生徒が食に関する興味を持ち、適切な栄養摂取を考える良い機会であることから今後もできるだけ多くの応募献立を提供できるように推進していく。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	B	食育は栄養指導にとどまらず、生産者との交流や地域の文化としての社会的関心を育み、子どもたち、家族、地域の多世代交流の機会となりうる。信濃わらび山荘の立地する川上村もレタスの特産地として知られる。学校区の公民館とも連携して、産直農産物調理イベントや子ども料理教室、家庭教育事業など、魅力ある食育事業のプログラムとして連携を広げるコーディネーターなどの配置も課題である。／生産者が少ない蔵市にとって、応募献立は今後も期待したい取り組み。応募献立による給食実施日に合わせ「その日の夕食メニューを公募」など食育の機会を広げていくことを期待する。

令和3年度 事務事業点検評価シート

事業番号	4	事業名	特別支援員配置事業
		担当部署	学校教育課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	1 学びあい高めあう学校教育の充実
	施策	1 教育内容の充実
	施策の展開・主な取り組み	5 特別支援教育の充実

事業の内容	市費により特別支援教育支援員を採用し、特別な支援を必要とする児童生徒が通常の学級に在籍する学校に配置する。
-------	---

事業の対象	通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒
-------	---------------------------

事業の目的・目指すべき姿	各学校に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒に対し、個に応じたきめ細かな指導・支援の充実を図る。
--------------	---

取り組みにおける成果・効果について

小・中学校において、教育上特別な支援を必要とする児童生徒は年々増加傾向にある。特別支援員は特に小学校低学年において、学習支援だけでなく、休み時間の児童観察や給食時の配膳支援、清掃指導の支援など、支援の内容は多岐にわたり、支援員の補助が今や不可欠である。また、担任1人では気付くことができない、児童生徒一人一人のわずかな状態の変化に気付いたり、早期対応が必要な細かな部分にも手を差し伸べるなど、特別支援員を配置することにより、児童生徒の実態に即した、きめ細かな学習指導や安全確保等の充実が図られており、現在の教育現場で不可欠な個別の指導・支援が可能となっている。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	平成30年度（実績）	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（見込み）
要支援児童・生徒数(人)	108	136	148	119
対象者1人当たりの支援員の数(人)	0.09	0.07	0.06	0.08
要支援児童・生徒数1人当たりの経費(円)	67,685	55,183	53,864	68,775

決算額の状況	年度	平成30年度 決算額(円)	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 予算額(円)
	事業費	5,980,000	6,175,000	6,641,936	6,854,280
	人件費	1,330,000	1,330,000	1,330,000	1,330,000
	合計	7,310,000	7,505,000	7,971,936	8,184,280

残されている課題・今後の取り組みについて

年度当初に支援員を対象の研修会を実施し、勤務する上での服務規律、事例研究等を行っている。しかし、支援が必要な児童生徒が多岐にわたっていること、また、学校・学級ごとに細かいルールが異なっていることもあるため、支援員が判断に困る場面も少なくない。支援員が一人一人の児童生徒にとって、よりよい支援を行うことができるようにしていくことができるよう、今後の支援員対象の研修内容については、実際の事例に即した内容も取り入れるなど、より実践的な研修を実施するなど努めていく。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	A	子どもたちの多様化のなかで、特別支援員は欠かせない支援の役割を担っている。専門的な研修の機会の充実とともに、教員と支援員の実践交流も重要である。両者の混合的な研修機会、疑問を受け止める相談の機会など、働きやすい環境づくりを重視していく必要がある。／支援ニーズに対応することの難しさはあるが、より幅広い対応を願う。あわせて、支援員の支援に係る要望にも対応できるように、支援員をサポートする環境をより広くする工夫を望む。

令和3年度 事務事業点検評価シート

事業番号	5	事業名	教育センター教職員研修事業
		担当部署	学校教育課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	1 学びあい高めあう学校教育の充実
	施策	1 教育内容の充実
	施策の展開・主な取り組み	6 教職員の指導力の向上と人材の確保

事業の内容	教育センターにおいて、計画的・継続的な教職員の研修を実施する。
事業の対象	蕨市立小・中学校教職員
事業の目的・目指すべき姿	教育センターにおいて、計画的・継続的な研修を実施することにより、教職員一人一人の資質・指導力の向上を図る。

取り組みにおける成果・効果について

蕨市教育センターとして5年が経過した。適応指導教室（日々草学級）や日本語指導特別支援教室のない午後の時間帯に教員をはじめ、市内小・中学校に配置されている、さわやか相談員、ALT等の研修を開催することができた。

令和2年度は年度末に臨時休業措置が取られ、令和2年の4、5月は研修会を行うことができない状況であった。学校再開後、集合型やオンライン型の研修会を行い、合わせて80回の教職員研修会を開催した。

教育センターにおいて、計画的・継続的な教職員等の研修を実施したことにより、一人一人の資質・指導力の向上を図ることができた。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	平成30年度（実績）	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（見込み）
年間研修実施回数	91	94	80	80
教職員等の年間研修参加延べ人数	1,461	1,270	1,126	1,200
研修1回当たりの事業費	193,002	178,096	217,780	220,575

決算額の状況	年度	平成30年度 決算額(円)	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 予算額(円)
	事業費	16,322,162	15,500,000	16,181,378	16,405,000
	人件費	1,241,000	1,241,000	1,241,000	1,241,000
	合計	17,563,162	16,741,000	17,422,378	17,646,000

残されている課題・今後の取り組みについて

小・中学校ともに、新学習指導要領での学習が始まっている。小・中学校においてはICTを活用した授業が行われ始め、教育センター内に教職員の研修を行うためのICT機器の整備が完了した。令和2年度は、4、5月と臨時休業となり、年度当初の多くの研修会が中止となった。また、感染拡大防止の観点から教員を集めての研修会を計画通りに進めることができていない状況であったが、同時双方向型のソフトを使用するなど、形態を工夫しながら、研修を行ってきた。

今後も、状況を見極めながら計画の見直しを適宜行い、形態を工夫しながら教職員一人一人の資質・指導力の向上を図っていく必要がある。

外部委員評価	評価結果	
	A	<p>教職員研修は重要必須事業であり、教員の多忙化によって削減されることのないよう、また受け身の研修にとどまらず参加・交流型の研修に十分配慮して定期的・継続的な実施が必要である。ICT指導については児童・生徒の環境格差に配慮するとともに、子ども世代が地域で活躍する機会という側面もあり、学校から地域への発信も視野に入れた指導のあり方も工夫してほしい。／研修事業の現状事業の継続とともに、オンラインによる新たな研修体制の構築等、課題が見えてきたと思われる。過去のやり方にとらわれない研修事業を期待する。</p>

令和3年度 事務事業点検評価シート

事業番号	6	事業名	外国語教育等推進事業
		担当部署	学校教育課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	1 学びあい高めあう学校教育の充実
	施策	1 教育内容の充実
	施策の展開・主な取り組み	7 国際理解教育の充実

事業の内容	市費によるALT（外国語指導助手）の小・中学校全校配置、及び中学校2・3年生を対象とした英語4技能テスト（GTEC）の公費負担での実施。
-------	--

事業の対象	市内小・中学校児童・生徒
-------	--------------

事業の目的・目指すべき姿	市費により、ALT（外国語指導助手）を採用するとともに、小・中学校へ配置し、外国語及び国際理解教育を推進する。また、中学校2・3年生を対象に、教職員研修、GIGAスクール端末を活用した外国語学習等を組み合わせた英語4技能テスト（GTEC）を公費負担で実施し、外国語活用能力の向上を図る。
--------------	---

取り組みにおける成果・効果について

ALT（外国語指導助手）については、市費による直接雇用としているため、優秀な人材の確保ができています。また月1回、市教委主催の全ALTを対象とした研修会や、学期に1～2回の学校訪問等を通じて、新学習指導要領に対応した指導の在り方等についてもきめ細かく指導ができ、配置校との連携も図ることができました。また、直接雇用で優秀なALTを確保できているため、特に小学校において新たに全面実施となった小学校3・4年生における外国語活動、及び小学校5・6年生における外国語の授業についても、スムーズに導入することができました。

ALTについては、授業以外にも給食や清掃活動、クラブ活動など、様々な場面で児童生徒との交流を図っており、国際理解教育の推進に大きな役割を果たしている。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	平成30年度（実績）	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（見込み）
支援児童・生徒数	3,574	3,582	3,385	3,447
ALT1人当たりの支援児童生徒数	510.6	511.7	338.5	344.7
支援児童・生徒数1人当たりの経費(円)	7,001	7,286	10,908	12,566

決算額の状況	年度	平成30年度 決算額(円)	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 予算額(円)
	事業費	23,998,541	25,074,929	35,901,866	42,292,000
	人件費	1,022,000	1,022,000	1,022,000	1,022,000
	合計	25,020,541	26,096,929	36,923,866	43,314,000

残されている課題・今後の取り組みについて

ALTについては、市のホームページを通して、志願者へなるべく早い時期に募集について周知したりするなどして、多くの応募があったが、高い指導技術をもったALTを確保することは容易ではない。引き続き、募集に関する工夫をするなど、指導力のあるALTの継続的な確保に努めていく。

また、外国語については小学校だけでなく中学校も新学習指導要領に基づき指導内容や指導方法が新しくなったものが多く、さらにGIGAスクール構想に基づく、1人1台のPC端末を活用した効果的な指導法も求められている。そのため、ALTが授業等で、適切に教員を支援できるよう、採用後についても研修委託会社等の協力を得ながら、計画的に研修を行っていくとともに、中学校においては、中学校2・3年生を対象に英語4技能テスト、教員研修、GIGAスクール端末を活用した外国語学習等を組み合わせたGTECを併せて実施し、生徒の外国語活用能力のより一層の向上を図っていく。

外部委員評価	評価結果	評価コメント
	A	グローバル化のなかで、異なる言語、文化をもつ人々とのコミュニケーション能力を持つことはこれからの世代にとって必要不可欠である。英語能力を高める指導の重要性に加えて、多文化社会での対話の経験、英語を中心とした言語への関心を育むなど、ALTによる支援が多様な文化への適応力を養うことにつながるよう、国際理解教育の推進について検討することも今後の課題といえる。この事業の目的と英語4技能テストに至る学習過程や結果考察を是非結びつけてほしい。テストのことはこの事業とは別にし、ALTの資質向上に焦点を当てることも考えられる。ALTの質が、テスト結果で評価されることがないよう、今後も充実した国際理解教育を期待する。

令和3年度 事務事業点検評価シート

事業番号	7	事業名	学校応援団事業
		担当部署	学校教育課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	1 学びあい高めあう学校教育の充実
	施策	3 地域に根ざした教育の展開
	施策の展開・主な取り組み	1 家庭・学校・地域の連携

事業の内容	家庭・地域社会と協力した、各校における「学校応援団」組織による取り組みを実施する。
事業の対象	各学校（児童・生徒）及び学校に関わる家庭・地域社会の方々
事業の目的・目指すべき姿	学校・家庭・地域社会が一体となって取り組みを推進し、学校の活性化と家庭や地域の教育力の向上を図る。

取り組みにおける成果・効果について

蕨市では県の学校応援団事業に先駆け、学校ボランティア制度を取り入れ17年目を迎えた。各学校の学校応援団コーディネーターを中心に学校応援団の充実・発展に努めている。現在では市内全小・中学校で学校応援団が周知されていることで、多くの保護者の協力を得ているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、活動内容の精査を行い、可能な範囲で実施をした。

具体的な活動内容については、教育環境の整備や児童・生徒の安全確保をはじめ、学習活動や体験活動、学校ファームへの支援等であったが、人数を制限するなどの対応を行い実施している。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	平成30年度（実績）	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（見込み）
延べ事業数（件）	45	45	20	30
各校応援団人数（人）	991	927	705	800
1人当たりの事業費（円）	1,007	1,077	1392.1	1352.5

決算額の状況	年度	平成30年度 決算額(円)	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 予算額(円)
	事業費	18,360	18,360	1,400	102,000
	人件費	980,000	980,000	980,000	980,000
	合計	998,360	998,360	981,400	1,082,000

残されている課題・今後の取り組みについて

ここ数年、各校での学校応援団コーディネーターをPTA役員等をお願いしていることが多くあり、学校応援団の調整をお願いしているが、コーディネーターの方もボランティアの1人であり、負担が大きくならないように努めている。

保護者や地域の方々、おやじの会等多くの方に事業に対するご理解、ご協力をいただいております。コーディネーターの趣旨を理解していただくとともに、研修の機会やコーディネーター等が情報交換が行えるような場を、更に設定してお互いの情報交換を行い、負担の軽減を図っていく必要がある。

現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、応援団人数を制限しているが、学校と地域、家庭とのつながりが切れないように、情報発信を継続していくとともに、国のガイドラインに合わせて、できることから実施していく必要がある。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	A	保護者・地域住民の協力を得て定着している事業であり、昨今あらためて通学環境の整備への地域住民の協力も重視されている。コロナ禍で先細ることのないよう通信などの手段を充実するとともに、地域の人材活用によるオンライン講演など学校・地域・家庭の連携を維持することが課題である。／コーディネーター個人に運営の負荷が大きい中で、事業運営が続いているのは、評価される。反面、学校に直接子供がいない市民に対する参加機会を作ることが今後の課題として見えてくる。情報発信の工夫に期待する。

令和3年度 事務事業点検評価シート

事業番号	8	事業名	アウトメディア推進事業
		担当部署	学校教育課 (生涯学習スポーツ課)
教育振興基本計画での位置付け	基本目標	1 学びあい高めあう学校教育の充実	
	施策	3 地域に根ざした教育の展開	
	施策の展開・主な取り組み	4 家庭教育における意識の向上	
事業の内容	学校、家庭、地域の方々が連携しながらアウトメディアの取り組みを進めるために、学校関係者や各団体関係者、地域の方々が集まり活動実践報告や講演を行うアウトメディア推進大会や、小学生を対象にした将棋大会を開催する。		
事業の対象	アウトメディア推進大会…学校関係者、各団体関係者、市民 小学生将棋大会…蕨市内小学生		
事業の目的・目指すべき姿	子供たちの健やかな成長のために、蕨市アウトメディア宣言に基づき、学校、家庭、地域の方々が連携しながらアウトメディアの取り組みを進める。		

取り組みにおける成果・効果について

アウトメディア推進大会は、蕨市アウトメディア宣言を制定した平成23年度第1回大会以降、学校、家庭、地域の方々が連携しながらアウトメディアの取り組みを進めるために毎年1回開催し、活動実践報告や、講師による講演会を実施している。小学生将棋大会については、児童に対するアウトメディア推進の一環として開始された（令和元年度で6回目）。また、児童・生徒が主体となって平成28年度に策定した「小・中学生の携帯電話・スマートフォンに関するルール」を啓発するための取組について、推進大会で平成29年度より毎年1校ずつ発表してもらっている。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る対応として、アウトメディア推進大会及び小学生将棋大会は中止とした。コロナ禍において、蕨市アウトメディア指導員を活用し、新たに学校での「出前講座」を実施する取り組みを行った。（実績：保護者231人）

GIGAスクール構想によりICT教育を推進するにあたり、本事業とのバランスについて再考し、事業を進めていく必要がある。

取り組みに対する担当課評価	B	前回評価結果	B
---------------	---	--------	---

参考指標	平成30年度（実績）	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（見込み）
事業数（回）	2	2	代替事業1	2
参加者数（人） （推進大会+将棋大会）	250 (145+105)	184 (100+84)	代替事業231	200 (115+85)
参加者1人当たりの事業費（円）	10,094	12,674	0	11,610

決算額の状況	年度	平成30年度 決算額(円)	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 予算額(円)
	事業費	151,132	131,486	0	132,132
	人件費	2,372,500	2,190,000	0	2,190,000
	合計	2,523,632	2,321,486	0	2,322,132

残されている課題・今後の取り組みについて

アウトメディアに関する事業は、本市において重要施策の一つであり、アウトメディア推進大会や小学生将棋大会もアウトメディア推進の中核となる事業である。新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る対応をしながら、アウトメディア推進大会、将棋大会、また小・中学校への啓発を継続していくことが必要である。

昨年の外部委員評価を受けて、アウトメディア宣言から、子供を取り巻くメディアの環境変化の時代に合わせて、「アウトメディア宣言」にサブタイトルを付けて「メディアとの付き合い方」を新たに示して推進していきたい。

また、小・中学校においては、いじめ未然防止に関する取り組みとも連携を図りながら、子供たちの健全育成に努めていくとともに、蕨市アウトメディア指導員を活用し、「出前講座」等を実施する取り組みを進めていく。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	B	<p>子どもたちの発達環境を守る蕨市独自の事業として成果をあげており、アウトメディア指導員の活用も今後が期待される。アウトメディア推進大会及び小学生将棋大会が中軸の事業であるが、音楽のまちづくりや食育、自然体験・職業体験学習などと連携して体験から学ぶ・人と交流して学ぶなど、アウトメディア本来の意義を伝えるために学校応援団などの協力も含めて事業の拡充が期待される。／この事業における目的で大切なのは、メディア依存による弊害であり、メディアに近寄らないことではない。メディアを活用したコンテンツ制作など、メディアの利点とその過程におけるアウトメディアの部分を体験するなど、新しい取り組みにチャレンジすることを期待する。</p>

令和3年度 事務事業点検評価シート

事業番号	9	事業名	地区生涯学習フェスティバル事業
		担当部署	公民館

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	2 生涯学習を支える社会教育の充実
	施策	1 学習環境と学習機会の充実
	施策の展開・主な取り組み	2 多様な学習機会の提供

事業の内容	公民館を利用している団体・クラブを中心として、地域の小中学校、高齢者クラブなど地域団体と共に、日頃の活動の成果発表や作品展示などを行う他、地区ごとに特色ある催しを実施することにより幅広い世代に生涯学習の推進を図る機会を提供する。
-------	--

事業の対象	生涯学習・地域団体及び市民
-------	---------------

事業の目的・目指すべき姿	公民館で活動する利用団体やクラブが活動の成果発表することにより、さらなる意欲向上が図られるとともに、コンサートや模擬店、講座などさまざまな取り組みを通じて、地域住民との交流やふれあいを深めることで公民館の認知度向上や公民館での活動参加や新たな学びのきっかけづくりになり、地域の生涯学習の推進に寄与するものとなる。
--------------	--

取り組みにおける成果・効果について

令和2年度は、各地区とも実行委員会にてコロナ禍での開催について会議の他、アンケート実施など検討した結果、全地区フェスティバルを中止とした。なお、フェスティバルは中止になったが、公民館利用団体は、それぞれ活動は続けており、団体によっては市の動画配信プロジェクトでの活動発表や市展、桜のまち南町文化展（誰でも参加できる美術展）への作品展示などの取り組みを行っている。

本事業は、例年各地区の住民と公民館利用団体やクラブ等で実行委員会を組織して「地区生涯学習フェスティバル」を開催し、活動の成果発表や交流の場となっている。フェスティバル事業は公民館利用団体の活動成果を広く地域住民にPRできる点、団体に属していない個人の方でも気軽に参加でき学習活動に参加するきっかけづくりの場として機能している点で生涯学習の活性化に大きく寄与している。

取り組みに対する担当課評価	—	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	平成30年度（実績）	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（見込み）
協力団体数（件）	347	340	0	320
延べ来館者数（人）	16,748	16,296	0	9,629
1人当たりの事業費（円）	304	286	0	501

決算額の状況	年度	平成30年度 決算額（円）	令和元年度 決算額（円）	令和2年度 決算額（円）	令和3年度 予算額（円）
	事業費	630,000	735,000	0	630,000
	人件費	4,467,500	3,932,500	1,715,500	4,197,500
	合計	5,097,500	4,667,500	1,715,500	4,827,500

残されている課題・今後の取り組みについて

参加団体の高齢化や参加団体数の減少により担い手側の負担が増しているため、子供の団体など若い世代の参加を促していく必要がある。また、日頃公民館に馴染みのない方や特に若い世代が気軽に参加できるよう子ども向けや親子向けの関心の高いテーマを取り上げたイベントの開催など継続して取り組んでいく。加えてフェスティバル自体のPR方法にも工夫をしていく必要がある。模擬店や物販などお祭りの賑わいの創出と学びのきっかけづくりとしての質的な深まりとのバランスを考慮して企画運営に取り組んでいく。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響は継続しており、ワクチン接種の進捗状況など経過を注視しながら、事業内容の企画検討を行っていく。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	—	全国的に生涯学習フェスティバル・公民館文化祭系の事業はコロナ禍で休止をやむなくされているが、展示、オンライン開催など工夫して代替手段をとって開催する事例も増えている。サークル・団体活動も休止状態となっているが、つなぐ・対話する・交流することをやめないことは次への活動につながる。公民館のオンライン環境を見直すことも含め、再開への工夫が求められる。／各地区の公民館が、一定の決まったグループのみが活用しているように見えてしまうのは残念。新規参加グループや地域活動のプレゼンテーションの場を提供する仕組みが望まれる。

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、当事業については4段階評価のランク付けは、行わないこととしました。

令和3年度 事務事業点検評価シート

事業番号	10	事業名	図書資料の貸出（予約）事業
		担当部署	図書館

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	2 生涯学習を支える社会教育の充実
	施策	1 学習環境と学習機会の充実
	施策の展開・主な取り組み	4 図書館サービスの充実

事業の内容	図書資料等の貸出・予約、県内公立図書館ネットワークによる相互貸借制度の活用
事業の対象	市内に在住・在勤・在学する者のほか、川口市、戸田市、草加市及びさいたま市に在住する者
事業の目的・目指すべき姿	<p>[事業の目的] 利用者の多様なニーズに応え、教養の向上、レクリエーションおよび日常生活に役立つ資料などを幅広く収集し、提供する。</p> <p>[目指すべき姿] 高度化、多様化する情報について、図書資料をより多く収集することにより、利用者の教育と文化の発展に寄与する。</p>

取り組みにおける成果・効果について			
<p>令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う政府による緊急事態宣言等を受け休館となった期間もあり、年間実利用者数・年間貸出件数は前年度比減となった。一方、館内への立ち入りの制限期間中に予約資料の受け渡しを継続したことで、年間予約件数は前年度比+60%と大幅増となった。利用者からは「近隣市の図書館が利用できない中、蔵の図書館では予約すれば借りられるのでとても嬉しい」といった声を多くいただいた。また、蔵市が舞台の女子サッカー漫画「さよなら私のクラマー」の特設コーナーを設け、多くの利用者に蔵市が漫画・アニメの舞台となったことを知っていただき話題にすることで蔵市への愛着を高めるとともに、地域活性化に資することができた。いずれの取り組みも外出自粛が要請されステイホームが推奨される中、せめて読書を楽しんでいただける環境を提供したことで、利用者の生涯学習活動に寄与することができた。</p>			

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	平成30年度（実績）	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（見込み）
年間実利用者数（人）	9,537	9,720	7,695	8,000
年間貸出件数（件）	294,993	338,861	279,765	290,000
年間予約件数（件）	18,412	24,788	39,642	40,000

決算額の状況	年 度	平成30年度 決算額(円)	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 予算額(円)
	事業費	31,601,243	30,617,605	34,221,114	37,592,000
	人件費	42,786,000	44,459,000	39,010,000	39,010,000
	合 計	74,387,243	75,076,605	73,231,114	76,602,000

残されている課題・今後の取り組みについて	
<p>昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、図書館講演会をはじめ、長期休業期間中に実施していたおたのしみ会、隔月で開催していた映画会等、計画していたほぼ全ての事業を軒並み中止せざるを得なかった。そのような状況の中、児童向けイベントの「絵本と紙芝居」他2事業については、ご協力いただいているボランティアの方々と連携し、感染対策の徹底を図った上、再開することができた。今年度は、感染状況を鑑みながら、各種事業の再開に向け、検討を重ねていく。コロナ禍だからこそ、図書館の果たす役割への期待が高まっていると考えられるため、引き続き利用者の本への関心が高まり、更なる図書館利用の拡大につながるような取り組みを今後も継続していく。</p>	

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	A	<p>社会教育施設の多くが事業休止になったなかで、図書館の存在価値があらためて注目されている。WEB予約が定着していることも貸出の維持につながった。WITHコロナの工夫として、新刊図書の動画紹介や学校向児童図書オンライン朗読など、情報手段を活用して図書館利用への関心を高める新たな方法も考えられる。／図書館の役割も本の貸し出しだけでなく、イベントによる集客等、多様化への対応能力が問われている。引き続き取り組みに期待したい。市民からの要望や購入図書選定など、選定プロセスの発信をHPで行うべきと思う。</p>

令和3年度 事務事業点検評価シート

事業番号	11	事業名	家庭教育学級事業
		担当部署	公民館

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	2 生涯学習を支える社会教育の充実
	施策	1 学習環境と学習機会の充実
	施策の展開・主な取り組み	6 家庭教育の支援

事業の内容	サロン方式や、リトミック、応急処置、工作、調理、クリスマス会などの季節イベントなどさまざまな事業を通して、乳幼児をもつ保護者の家庭教育の学習機会の充実を図る。
事業の対象	乳幼児をもつ親（2・3歳児の保護者と特定した講座が中心であるが、0～2歳児というように年齢の幅をもたせたもの、1歳児、2歳児と対象を絞ったものもある）
事業の目的・目指すべき姿	主に3才児以下の乳幼児をもつ保護者を対象に、子どもたちの健やかな成長と発達を促すため、家庭教育に関する学習機会を提供し、家庭の教育力向上と、保護者同士の交流や情報交換ができる場として、子育て環境の充実を図ることを目的とする。

取り組みにおける成果・効果について

全公民館とも家庭教育学級は事業の柱に位置付けている。主に2・3歳児の保護者を対象にしたものが中心であるが、0歳から2歳など年齢を低くして対象を広げた講座も充実してきている。趣味的なものや、子育てに必要な学習の講座など、多様なメニューが主流で、同一の講師による連続講座や専門的な学習講座など、それぞれ館の特色を出している。また、自由に参加できる子育て広場なども参加者が増え、情報交換、交流の場として充実してきている。

令和2年度はコロナ禍で募集人数を減らし、変則的な開催にも関わらず参加者が多かったことから必要性の高い事業と考える。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	平成30年度（実績）	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（見込み）
7館の家庭教育学級回数(回)	230	212	96	219
事業に参加した延べ人数(人)	6,003	4,304	1,564	3,748
参加者1人当たりの事業費(円)	681	880	952	991

決算額の状況	年度	平成30年度 決算額(円)	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 予算額(円)
	事業費	1,942,400	1,761,785	591,149	1,695,770
	人件費	2,144,447	2,023,532	897,356	2,019,989
	合計	4,086,847	3,785,317	1,488,505	3,715,759

残されている課題・今後の取り組みについて

2・3歳児においては、幼稚園やプレ保育等への入園傾向にあり、公民館開催事業への参加者が少なくなっている。共働き世帯、核家族化などの現代的な課題も参加者減少の原因の1つであると考えられるため、事業の内容、周知方法、日程等も検討課題である。

また、児童館などの近隣の子育て施設の事業と対象年齢が重複していることもあり、児童館と公民館の特性を生かした事業内容で参加者減少の解消を図るため、合同での事業を開催した。今後も引き続き合同開催を検討している。

外部委員評価	評価結果	評価コメント
	A	子育て中の親と幼児が地域で交流する事業を通じて子育て環境の向上が図られ、また若い世代の地域参加のきっかけともなっている魅力的な事業である。他方で参加できない働く母親、子どもが学校に入ると活動が継続しないなど、参加者層が限定される状況もある。PTAや学校応援団と連携し、教育問題やアウトメディアへの関心に広げた家庭教育学級の拡充も期待される。／巣籠もりの巣立ちのきっかけとして、参加動員を仕掛けていく必要がある。次年度は、今までの倍動員する心構えで取り組んでほしい。夫婦や家族での参加イベントを増やしていくことも必要だと考える。

令和3年度 事務事業点検評価シート

事業番号	12	事業名	わらび学校土曜塾推進事業
		担当部署	生涯学習スポーツ課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	2 生涯学習を支える社会教育の充実
	施策	3 青少年の活動機会などの充実
	施策の展開・主な取り組み	1 青少年の活動機会の充実

事業の内容	土曜日に小学校施設を使用し、子供たちの自主学習（宿題、課題等）の支援や、体験学習等を行う。運営は各小学校区に設置した実行委員会で行う。また、スタッフは元教員や大学生、地域の方が務める。
事業の対象	実施する小学校に在籍する3学年から6学年の児童 ※平成25年度は3小学校区（東・西・南小）、26年度から全7小学校区で実施
事業の目的・目指すべき姿	地域及び家庭が連携協力し、子供たちの自主学習及び体験学習等を通して学ぶ楽しさを教え、学習習慣の定着及び基礎学力の向上を図る。

取り組みにおける成果・効果について

当初、令和2年4月からの開設に向けて、前年度より準備を進めており参加者の募集・受付を行っていた。新年度に入り、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、4月からの開設を延期とし、7月には全小学校区で組織している「わらび学校土曜塾運営委員会」のご意見を踏まえて、年度内の開設の中止を決定した。本運営委員会を開催するに際し、コロナ禍においても「どのような対策を行えば当事業を開設できるのか」という目安となる「わらび学校土曜塾 新型コロナウイルス感染症 対応マニュアル（案）」を提示し、新型コロナウイルス感染症の状況が好転次第、開設できる準備を整えている。また、令和3年1月の本運営委員会の開催後、全小学校区の管理職の方に現在の学校運営の状況及び、当事業開設に際してのご意見やアドバイスをいただいた。それらを踏まえ、令和3年4月には当事業を風化させないため全小学校区の対象学年に周知チラシの配布を行った。

当事業は、行政・家庭・地域が連携協力し、子供を育む環境づくりを推進するためには効果的な事業であると考えているため、引き続き、関係機関と連携を図り実施してまいりたい。

取り組みに対する担当課評価	—	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	平成30年度（実績）	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（見込み）
開設日数（日）	145	142	0	149
参加登録者数（人）	172	161	87（予定）	169
スタッフ登録者数（人）	117	107	100	112

決算額の状況	年度	平成30年度 決算額(円)	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 予算額(円)
	事業費	5,379,414	4,875,687	248,438	6,611,000
	人件費	1,533,000	1,387,000	1,349,000	1,704,000
	合計	6,912,414	6,262,687	1,597,438	8,315,000

残されている課題・今後の取り組みについて

本運営委員会や学校から「参加してもらいたい児童に申し込んでもらうための方法」を検討する必要があるとの意見がある。このコロナ禍の状況となつてからは特に学習格差が生じやすいことから、今後、本事業でどこまでサポートできるかが課題といえる。反面、この新型コロナウイルス感染症による影響が収束傾向に入らない限り、当事業の開設は困難であると考えている。その理由として、学校内に地域の方や大学生が入ることによってスタッフが感染源となってしまう可能性や、スタッフの中には高齢の方もおり、罹患した際、重症化する恐れもあるため開設に際しては慎重に進める必要がある。また、スタッフには「わらび学校土曜塾 新型コロナウイルス感染症 対応マニュアル」に添った運営を実施してもらう必要があるが、その内容が活動への負担となる場合があるため、事務局として細やかなサポートを行う必要があると考える。

	評価結果	評価コメント
外部委員評価	—	重要な子ども支援事業であるがコロナ禍で直撃を受けた。スタッフが若手の場合、オンライン指導も不可能ではないと思われるが、望ましいことではない。感染状況の落ち着いた段階で必要かつ適切な支援について検討することが期待される。／土曜塾が開催できなかったことは非常に残念。参加を希望していた子供達へのサポートも必要と思われる。参加者の具体的な個別目標設定やサポート体制の充実などを期待する。また、趣旨から外れるが、日本語理解度不足や学校環境へ溶け込めない児童への対応等、新たなニーズへの対応課題も垣間見える。スピード感を持った対応に期待したい。

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、当事業については4段階評価のランク付けは、行わないこととしました。

令和3年度 事務事業点検評価シート

事業番号	13	事業名	信濃わらび山荘管理運営事業
		担当部署	生涯学習スポーツ課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	2 生涯学習を支える社会教育の充実
	施策	3 青少年の活動機会などの充実
	施策の展開・主な取り組み	2 自然体験活動の充実

事業の内容	野外活動ができる施設の提供。
事業の対象	青少年団体・一般市民及び市外の方
事業の目的・目指すべき姿	恵まれた自然環境の中で、集団宿泊による野外活動を通じて、青少年の健全な育成を図るとともに、市民の憩いの場を提供し、健康の増進を図る。

取り組みにおける成果・効果について

長野県川上村は、八ヶ岳を望む恵まれた自然環境にある施設であるため、青少年が様々な体験を出来る活動の場を提供するものであるが、新型コロナウイルスの影響によって、林間学校を含む青少年団体の予約が全てキャンセルされた。そのため、団体送迎バス・高速代の半額補助も利用実績がなくなり、決算額が大幅に減少した。また、施設の利用率促進を図る目的で実施している「山菜まつり・川上村交流会」「親子レタス朝採り体験教室」「紅葉ツアー」についても、新型コロナウイルスの影響を鑑み、全て中止とした。コロナ禍に即した予防面での取り組みのほか、課題として、施設のPRや整備・維持の継続があげられる。

取り組みに対する担当課評価	B	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	平成30年度（実績）	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（見込み）
開館日数（日）	205	205	145	205
利用延べ人数（人）	2,264	2,443	778	1,300
利用者1人当たりの事業費（円）	11,359	10,463	26,714	20,185

決算額の状況	年度	平成30年度 決算額(円)	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 予算額(円)
	事業費	22,650,433	22,494,627	17,801,708	23,969,000
	人件費	3,066,000	3,066,000	2,982,000	2,272,000
	合計	25,716,433	25,560,627	20,783,708	26,241,000

残されている課題・今後の取り組みについて

新型コロナウイルスによって減少となった利用人数の実績については、ワクチン接種などで社会全体が通常の生活となるのを待ち、利用促進事業を活性化させようと考えている。
 築30年近くなる施設であるため、施設設備の老朽化が課題となっており、メーカーで修理部品も生産していないなど、調達も出来ない状況にあるため、維持管理が困難になってきている。
 また、施設運営では安全面の維持を最優先としなければならないが、テラスデッキについては腐食がすすみ、全面改修が必要な時期であるなど、限りある教育財源の中で本施設の在り方・方向性を検討していく転換期に入っていると考えている。
 （※令和2年度にはテラスデッキ下の基礎修繕を行っているが、現在一部テラスデッキについては立ち入り禁止エリアを設けた上で運営している。）

外部委員評価	評価結果	評価コメント
	B	令和元年度までの利用実績は高く、地元川上村との交流事業も蔵市の青少年にとって魅力的な機会となっている。老朽化による全面改修で青少年団体にとどまらず、市民の自然体験・農業体験施設としての活用の拡充を図るか、学校の夏休み自然体験事業などへの拡充を図るか、目的機能について十分検討を行う必要がある。貴重なフィールドであり、実績もあることから有効な活用を期待したい。／通常運営できないことによる、利用者の減少から評価が低くなってしまったことは残念だが、次年度以降は、人の動きも大きく変わっていくと思われ、それを踏まえた営業活動等積極的な事業運営を期待する。

令和3年度 事務事業点検評価シート

事業番号	14	事業名	蕨市公募美術展覧会事業
		担当部署	生涯学習スポーツ課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	2 生涯学習を支える社会教育の充実
	施策	4 芸術・文化活動の振興
	施策の展開・主な取り組み	2 芸術・文化活動の発表と鑑賞機会の充実

事業の内容	蕨市・蕨市教育委員会・蕨市文化協会が主催。応募作品について審査を行い、入選作品の展示を行う。なお、審査のうへ、優秀な作品には褒賞を行う（知事賞、市長賞、教育長賞、文化協会会長賞等）。また、招待作品（片品村や市内中学生の作品）の展示も行う。
事業の対象	作品の応募は、市民及び市内在勤在学者で16歳以上の者又は蕨市内の文化団体会員 展示期間中の観覧は自由（入場無料）
事業の目的・目指すべき姿	広く市民の芸術文化への理解と創造力の啓発を図り、豊かな人間性を養い、郷土文化の振興に寄与する。

取り組みにおける成果・効果について

「市民でつくる美術展覧会」意識の醸成、若年層への芸術文化の浸透を図るため、例年は5部門（絵画・彫刻・工芸・写真・書道）による作品の公募及び展示を「くるる」にて開催し、優秀な作品には褒賞を行っている。令和2年度については、委託先の蕨市文化協会と数回の協議をした結果、美術（絵画・彫刻・工芸）作品のみの「美術市展」と称して、作品の募集を行い、各部門の先生方からの講評を作品とともに映像で収めた。その動画を蕨市YouTubeへ掲載したほか、出品者の中には「動画をみる術を持ち合わせていない方もいる」という声から、全応募作品を掲載した「作品集」を作成し、出品者へ配布したほか、公共施設にも配架した。なお、「美術市展」を開催するに際し、一般の方の公募のほか、市内中学生の作品、プロの美術家による招待作品、蕨市立北小学校創立150周年記念『真っ白なテントに絵を描こう！』の作品の掲載も行った。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	平成30年度（実績）	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（見込み）
出品数	236	215	58	226
観覧者数	1,000	1,000	0	1,050
-	-	-	-	-

決算額の状況	年度	平成30年度 決算額(円)	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 予算額(円)
	事業費	228,241	223,381	200,000	221,175
	人件費	943,500	1,053,000	985,500	985,500
	合計	1,171,741	1,276,381	1,185,500	1,206,675

残されている課題・今後の取り組みについて

当事業は市民の芸術文化の振興に寄与している事業であるといえるので、より魅力的な事業となるよう委託先の文化協会と協力して実施してまいりたい。今後の課題として、市民の作品制作意識を高められるような工夫や、観覧者数を上げる方法について、継続的に研究していくほか、スタッフを務めている蕨市文化協会の会員の高齢化が顕著にあらわれており、後進の育成の方策について対応していく必要がある。コロナ禍においては、令和2年度は動画で作品を紹介したが、その手法が最善策かどうかの検証を文化協会と行うとともに、「市民の方に芸術作品の素晴らしさを伝える」ための方法を模索していきたい。

外部委員評価	評価結果	評価コメント
	A	市民が主体となって文化創造を行う事業として有意義である。応募年齢を取り払った子ども部門や障害者部門など、展示の場を交流の場とすることで若い世代の担い手につなぐなどの試みもそうした関心を高める可能性があるのではないだろうか。／身近な市民参加型の文化事業として、今後も継続して行ってほしい。あわせて、新たな試みを短中期計画を立てて、試していくことを期待する。

令和3年度 事務事業点検評価シート

事業番号	15	事業名	音楽によるまちづくり事業（蕨市民音楽祭）
		担当部署	生涯学習スポーツ課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	2 生涯学習を支える社会教育の充実
	施策	4 芸術・文化活動の振興
	施策の展開・主な取り組み	2 芸術・文化活動の発表と鑑賞機会の充実

事業の内容	音楽によるまちづくり事業の中心的な位置づけとなる個別事業として、蕨市民音楽祭を開催する。市民が音楽に触れ合うことができる環境を提供し、地域の活性化や芸術文化の振興につなげていく。
事業の対象	市内外の方
事業の目的・目指すべき姿	音楽を通じた蕨市の芸術文化の振興とその推進を図るとともに、音楽により蕨のまちの魅力を発信することで賑わいを創出し、蕨市のイメージアップを図る。

取り組みにおける成果・効果について

平成29年度から、市内各所で魅力あるプログラム（プロの演奏、アマチュアバンド、吹奏楽等）のコンサートを実施することにより、市民が一日中さまざまな音楽を楽しむことができ、市内外より多くの方が各会場に集まることで賑わいを創出することを目的に開催してきた。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、例年の8月開催を見送り、3つのイベントを12月・2月・3月に分散して実施した。また、観客を会場に集めることは感染リスクを高めるため、入場者数の制限を設けたり、「蕨市YouTube」にて動画の配信を行った。YouTubeに掲載した動画は、たくさんの方に観覧していただき、好評を得たものの出演者や携わったスタッフからは、「来年こそは、お客さんを入れて開催したい。やはり、観客がいると会場に一体感が生まれるので、テンションが上がる」との声があった。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	平成30年度（実績）	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（見込み）
出演者数	716	612	45	643
参加者数	29,192	4,301	112	4,516
イベント数	23	21	3	22

決算額の状況	年度	平成30年度 決算額(円)	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 予算額(円)
	事業費	2,660,000	2,700,000	1,887,149	2,700,000
	人件費	1,987,980	1,987,980	1,845,982	1,845,982
	合計	4,647,980	4,687,980	3,733,131	4,545,982

残されている課題・今後の取り組みについて

市民音楽祭は徐々に市内へ浸透しつつあり、当事業の開催や出演を楽しみにしているとの声をいただいている。今後は、音楽に興味がない方や子供、障害のある方にも参加・観覧してもらえるような工夫を行っていきたいとの声が実行委員会からあがっている。市民と行政との協働によって当事業だけでなく、音楽をツールとしてまちの賑わいを創出し、より蕨が元気に、そして市民活動の活性化につながるよう、尽力していきたい。

今後について、一定の音楽ジャンルに捉われず、広く多くの市民の方に楽しんでもらえるような企画・運営に努めていくとともに、市外からの集客も得られるようなPR方法の検討を行っていききたい。

外部委員評価	評価結果	
	A	蕨市の活力あるまちづくりへの重要な「顔」になる事業として定着してきた。子ども・障害者・外国籍住民の方々の参加を得るような工夫、学校音楽部の参加、野外演奏、作曲コンクールなど、質を高めつつ幅を広げる試みを通じて、多くの人々が音楽に親しみ日常生活を豊かにすることができれば、この町に住んで良かったという思いにつながる。実施体制も行政と市民の協働のモデルとして、市民参加を広げていくことを期待したい。／多くのイベントが中止に追い込まれてしまったにもかかわらず、少しでも開催できたことは、次年度以降の運営ノウハウを得るためにも必要なことなので、しっかりマニュアル化してもらいたい。今後も魅力的なコンテンツを生み出せるよう期待する。

令和3年度 事務事業点検評価シート

事業番号	16	事業名	特別展等開催事業
		担当部署	歴史民俗資料館

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	2 生涯学習を支える社会教育の充実
	施策	5 歴史・文化の保存と活用
	施策の展開・主な取り組み	2 歴史民俗資料館における事業の充実

事業の内容	特別展として、蕨市や近隣市にゆかりのある芸術家の作品の紹介や、蕨市の歴史・文化に関する展覧会を開催するほか、小学生を対象とした体験講座等を実施する。
事業の対象	歴史民俗資料館及び歴史民俗資料館分館の来館者
事業の目的・目指すべき姿	魅力ある展覧会や講座等を開催することで、幅広い年齢層の市民の来館を促し、蕨市の歴史・文化に触れる機会の充実を図る。

取り組みにおける成果・効果について

第39回特別展（「姉/妹-士・絲を遊ぶ-」）について、緊急事態宣言が発令されたことによる臨時休館（令和2年3月4日～5月31日）のため、3日間のみ開催となっていたが、宣言解除後、延長開催（6月2日～8月30日）をしたことで、多くの方に来館いただけた。また、第40回特別展（「熊木早苗の猫ウールアート-桜宵一刻-」令和3年2月28日～5月2日）では、小学生同士や子連れのファミリー層の来館も多く見受けられ、市内全公立小中学校児童・生徒にチラシを配布したことが効果を発揮したと言える。

また、今回は新型コロナウイルス感染防止対策として、毎年夏休みに開催していた小学生対象の体験講座を、夏休み（7～8月に3回）・クリスマス講座（11～12月に4回）・春の講座（3月に3回）の3期に分散して実施。十分なソーシャルディスタンスを確保できるよう、参加人数を限定し、検温や手指消毒、サーキュレーターや窓開けによる換気など、出来る限りの対策を行って開催した。各講座とも多くの参加があり、若年層にも歴史に触れてもらう良い機会となった。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	平成30年度（実績）	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（見込み）
展覧会の開催数（回）	3	3	2	3
利用者数（人）	19,503	10,385	11,068	12,000
1人当たりの事業費（円）	108	253	212	201

決算額の状況	年度	平成30年度 決算額(円)	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 予算額(円)
	事業費	1,090,800	1,623,600	1,370,600	1,436,270
	人件費	1,000,000	1,000,000	972,602	972,602
	合計	2,090,800	2,623,600	2,343,202	2,408,872

残されている課題・今後の取り組みについて

様々なジャンルをテーマにした魅力ある展覧会を企画していくほか、引き続き蕨市及び近隣市にゆかりのある芸術家やアマチュア作家等の人材発掘に力を入れていく。特別展については、第18回以降、蕨市の歴史・文化に関する展覧会を開催していないため、令和3年度より「蕨市の歴史・文化」と「蕨市や近隣市にゆかりのある芸術家」の作品を紹介する展覧会を、隔年ごとに実施していく予定である。

また、小学生対象の体験講座については、新規講座の開拓に努め、児童を魅了するような楽しい講座を企画し、更なる若年層の来館を目指していく。

なお、当面の間は、新型コロナウイルス感染拡大を想定し、最大限安全面を考慮した企画・運営が必要となるため、事業内容についても充分検討していく必要がある。

外部委員評価	評価結果	評価コメント
	A	展示という事業はコロナ禍でも十分に有効性を発揮しうる。その点でもこの間の実績は高く評価できる。展示事業としては定着しているが、小中学生、若年層の来館、また体験講座は今後学校や児童館とも連携して多様な工夫で新たな展開が期待される。／コロナの影響の中、展示会等も確実に開催できたことは、評価できる。「市外からの来場を増やす工夫も考えることで市のアピールにもつながる」等、次なる目標を立てていくことを期待したい。

令和3年度 事務事業点検評価シート

事業番号	17	事業名	平和事業
		担当部署	公民館（歴史民俗資料館）

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	2 生涯学習を支える社会教育の充実
	施策	6 人権・平和意識の高揚
	施策の展開・主な取り組み	3 市民の平和意識の高揚

事業の内容	公民館や図書館、歴史民俗資料館など市内社会教育施設において平和事業（パネル展・平和コンサート・講演会・母子像清掃等）を開催することで、平和の尊さや戦争の悲劇を後世に伝えていく。
-------	--

事業の対象	市民・施設利用者
-------	----------

事業の目的・目指すべき姿	戦争の悲惨さと平和の尊さを伝える取り組みを進め、市民の平和を愛する心を育み、平和で豊かな社会を次の世代に引き継いでいくことを目的とする。
--------------	--

取り組みにおける成果・効果について

蕨市は第二次世界大戦末期に3度にわたる空襲を受け、埼玉県下では熊谷市に次いで2番目に大きな被害を受けた歴史をもつことから、市を挙げて平和事業を行っており、市内各社会教育施設においても同事業を開催している。令和2年度は新型コロナウイルス感染症により中止した事業もあったが、そのような状況下でも実施できる事業を精査し、市内7か所の公民館では各地区コミュニティ等との共催で7月～8月にかけて『平和パネル展』を開催した。また、市立図書館や歴史民俗資料館でも同様に「資料展示」や「平和祈念展」を開催しており、戦時中の写真や資料の展示等を通し、戦争の悲劇や平和の尊さについて考え、次世代の平和意識の高揚を図ることにつなげることができた。

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	平成30年度（実績）	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（見込み）
開催数（回）	141	105	124	127
平和事業の延参加者数	3,774	3,344	1,295	2,273
平和事業に参加した市民の割合	5.03%	4.46%	1.73%	3.03%

決算額の状況	年度	平成30年度 決算額(円)	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 予算額(円)
	事業費	72,012	40,078	4,490	80,500
	人件費	671,708	613,802	270,333	548,176
	合計	743,720	653,880	274,823	628,676

残されている課題・今後の取り組みについて

戦争を体験した世代が高齢となり、直接話を聞くことのできる機会が少なくなっている。そのような状況下で今後いかにして戦争体験を後世に伝えて行くか課題である。
また、例年親子で参加できるように夏休み期間中（7月～8月）に事業を実施しているが、働く世代の方の参加が難しく、参加者の増加はあまり望めない状況である。事業を精査しながら、地道に理解を深めていく必要がある。
新型コロナウイルス感染症により、コンサートや平和祈念事業（式典）等の多くの市民が集まる形でのイベント開催が難しい中、関係者のみ参加する方式での「ミニコンサート」や「戦争の絵本の朗読」をオンラインで公開する等の新しい形式での実施も検討する。

外部委員評価	評価結果	評価コメント
	A	蕨市の社会教育施設が連携して取り組んでいる重要な事業であり、民主主義・人権意識の形成にとって不可欠の意義を持つ。市民の協力を得て、展示、コンサート、朗読会、講演会など、多様な方法で事業の幅を広げていることも高く評価される。全国的に戦争体験を語り継ぐ世代から次世代へという関心が高まっており、中学・高校の生徒会の取り組みや若者NPOの活動も注目される。国際理解、多文化共生など足下の課題と結びつけて主体的に学ぶ子ども・若者の平和学習の試みにもつなげられることを期待したい。／「平和」という言葉が、高齢者以外の世代にとっては、「世界平和」であって、住む地域が、戦争により被害を受けるなどとは、考えていない。グローバル社会を目指す今だからこそ、世界で起きている争いを発信していくことが必要と思われる。

令和3年度 事務事業点検評価シート

事業番号	18	事業名	スポーツ・レクリエーション推進事業
		担当部署	生涯学習スポーツ課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	3 どこでもだれもが親しめる生涯スポーツの充実
	施策	1 スポーツ・レクリエーション活動の推進
	施策の展開・主な取り組み	2 多様なスポーツ・レクリエーション機会の充実

事業の内容	温水プールの借上げ事業等を実施し、市民の健康増進、体力向上を図る。 また、スポーツ協会への委託事業として、水泳大会、ロードレースを開催する。
-------	---

事業の対象	市民
-------	----

事業の目的・目指すべき姿	市民の健康増進・体力向上を図るため、だれもがスポーツ・レクリエーションに親しむことができる機会の充実を図ることを目的とする。 運動・スポーツを週に1回以上の実施率向上を目指したい。
--------------	---

取り組みにおける成果・効果について

令和2年度はコロナ禍により、歴史ある大会として継続開催してきた夏の水泳大会、冬のロードレース大会を中止とした。また、子供たちにさまざまな競技を体験してもらおう少年スポーツ教室も中止とした。これらの事業は、例年、多くの参加を頂いており、市民の体力向上につながる事業と認識している。

一方、令和2年度に実施した民間温水プール借上事業については、初級者でもウォーキングで利用できるよう工夫し、利用者の健康増進につながっている。

このほか、自粛期間中に、自宅でできる体操を指定管理者によりインターネットなどを通じて紹介した。コロナ禍において心身の健康維持は、より重要になっていることから、こうした状況下においても対応可能な取り組みや事業方法の工夫・あり方の検証を進めていく必要があると考えられる。

取り組みに対する担当課評価	B	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	平成30年度（実績）	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（見込み）
事業数	5	4	1	4
事業日数	37	36	33	36
事業参加者数（人）	2,931	2,785	590	2,100

決算額の状況	年度	平成30年度 決算額(円)	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 予算額(円)
	事業費	4,089,706	4,221,035	2,200,000	4,316,000
	人件費	5,256,000	5,037,000	4,899,000	4,899,000
	合計	9,345,706	9,258,035	7,099,000	9,215,000

残されている課題・今後の取り組みについて

歴史ある水泳大会、ロードレース大会は継続していくが、引き続き市民の参加しやすい大会となるような工夫が必要と考える。民間温水プール借上は事業の更なる拡充を検討していく。

また、各関連団体や市民体育館指定管理者と協力し、市民の健康増進や少年スポーツ教室の充実のほか、新型コロナウイルス感染症の影響による自粛生活のなかでの、体力向上に向けた取り組みの検討を進めていく。その中で、今年度は蕨市が舞台となった女子サッカー漫画「さよなら私のクラマー」とタイアップをしたイベントを計画していく。

外部委員評価	評価結果	評価コメント
	B	コロナ禍で自粛し、身体・精神共に衰弱する高齢者層の現状は深刻である。自宅でできる体操の発信は有益な事業であり、それを手がかりに再活性化の可能性もある。体力作りの工夫などの通信発行や動画配信など、励ましとなるようなスポーツ対話も市民を支える力となる。／各種イベントが中止に追い込まれた結果、評価は下がってしまっているが、次年度では、ワクチン接種も行き渡っていくので、多くのチャレンジを促すイベントを期待する。

令和3年度 事務事業点検評価シート

事業番号	19	事業名	公共スポーツ施設予約システム事業
		担当部署	生涯学習スポーツ課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	3 どこでもだれもが親しめる生涯スポーツの充実
	施策	2 スポーツ・レクリエーション推進体制の充実
	施策の展開・主な取り組み	1 生涯スポーツを推進する体制づくり

事業の内容	公共スポーツ施設予約システム（対象施設：富士見公園内野球場、富士見第2公園内庭球場、塚越公園内野球場、錦町スポーツ広場、市民体育館、信濃わらび山荘）により、施設の利用予約を行う。
-------	---

事業の対象	施設利用者
-------	-------

事業の目的・目指すべき姿	インターネットを活用し、スポーツ施設の予約を可能とすることにより、利用者の利便性の向上を図る。
--------------	---

取り組みにおける成果・効果について

<p>予約システムが定着してきたことにより、施設予約が手軽に可能となったためか、多くの市民に利用していただいている。</p>
--

取り組みに対する担当課評価	A	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	平成30年度（実績）	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（見込み）
対象施設数	6	6	6	6
登録数（個人・団体）	1,531	1,848	2,113	2,200
利用件数（年間）	14,991	15,860	16,095	16,100

決算額の状況	年度	平成30年度 決算額(円)	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 予算額(円)
	事業費	2,539,512	3,072,632	2,586,540	2,516,360
	人件費	3,285,000	3,139,000	3,053,000	3,053,000
	合計	5,824,512	6,211,632	5,639,540	5,569,360

残されている課題・今後の取り組みについて

<p>予約については、利便性向上となったが、施設利用の許可や施設料支払いなどについて、システムと連動できていないため、事務効率の観点から検討や運用の工夫などを図る。</p>
--

外部委員評価	評価結果	評価コメント
	A	<p>インターネット予約による利便性が増して、利用団体にとって有益なサービスとなっている。一方で利用が集中して予約がとりにくい、施設の条件の不便さなど、利用団体からの声が届きにくくなっていると思われる。予約以外の機会にそうした声を受け止める方法について配慮することも課題である。／ネット予約は必要なものであるが、各施設ごとに登録した組織でないと、ネットでの予約ができないシステムの割には、システムにかかる予算が高額。評価にあたっては、システムの仕様・スペックなどの資料があると良いと思った。</p>

令和3年度 事務事業点検評価シート

事業番号	20	事業名	スポーツ・レクリエーション団体支援事業
		担当部署	生涯学習スポーツ課

教育振興基本計画での位置付け	基本目標	3	どこでもだれもが親しめる生涯スポーツの充実
	施策	2	スポーツ・レクリエーション推進体制の充実
	施策の展開・主な取り組み	2	スポーツ団体の支援と地域の人材活用

事業の内容	スポーツ協会への補助金交付及び、活動・運営に対する支援を行う。
事業の対象	蕨市スポーツ協会
事業の目的・目指すべき姿	幅広い年代の市民が参加できるスポーツ・レクリエーション行事の実施及び各団体活動のいっそうの充実を図るため、必要な支援を行うもの。

取り組みにおける成果・効果について

スポーツ協会へ補助金交付などの活動支援を行うことにより、各競技団体や地域5支部が年間を通じた各種スポーツ行事を開催するとともに、ホームページを活用し、広く市民への周知に努め、競技スポーツ及び生涯スポーツの推進を図っている。令和2年度はコロナ禍の影響により、市主催事業は中止となったが、感染症対策を講じながら、スポーツ協会加盟団体では、6競技の市民秋季大会が開催され、約650名の参加があった。コロナ禍において心身の健康維持は、より重要になっていることから、活動が制限されるなかにおいてもスポーツ協会と連携し、工夫しながら取り組んでいくことが必要であり、対応可能な取り組みや事業方法の工夫・あり方の検証について、スポーツ協会の現状も見定めながら協議していきたい。

なお、当協会は令和元年度に創立90周年を迎え、スポーツを通じて生涯にわたり心身共に健康で文化的な生活を営むことができる社会の実現に向け、本協会の目的、社会的責任を果たすことを改めて決意し、スポーツと同様に世代を超えて市民に親しみを持ってもらえる団体となるよう、令和3年度に「蕨市スポーツ協会」へ名称を変更し、蕨市のスポーツのさらなる発展に寄与していく。

取り組みに対する担当課評価	B	前回評価結果	A
---------------	---	--------	---

参考指標	平成30年度（実績）	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（見込み）
年間行事数	14	12	0	14
参加延べ人数（人）	5,106	5,494	0	5,000
加盟団体数	28	28	28	28

決算額の状況	年度	平成30年度 決算額(円)	令和元年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	令和3年度 予算額(円)
	事業費	2,520,000	2,520,000	2,520,000	2,520,000
	人件費	3,796,000	3,796,000	3,692,000	3,692,000
	合計	6,316,000	6,316,000	6,212,000	6,212,000

残されている課題・今後の取り組みについて

スポーツの推進を図るため、各加盟団体が行うスポーツ教室を充実とともに、同教室や各種イベント等への参加、スポーツ施設の利用促進などを通して、公民館利用団体（一部にはスポ協・レク協などへ加盟済のものあり）や小グループ、個人などへの働きかけに努める。市民全体のスポーツ・レクリエーション振興に向けて、レクリエーション協会やスポーツ少年団など他団体との連携をはじめ、指導者育成の推進や更なるスポーツ・レクリエーション活動の機会提供など生涯スポーツの推進の中心的な役割を担っていきけるよう、引き続き支援していく。

外部委員評価	評価結果	評価コメント
	B	コロナ禍で主催事業の休止もやむを得ない状況であるが、スポーツ協会の構成団体がそれぞれにどのような工夫をして可能な団体活動を維持してきたか、あるいは休止に追い込まれたかなどの実態をアンケートなどで記録化し、通信などで共有することは可能と思われる。未曾有の災難であるが、「コロナ禍とスポーツ」の課題を生涯学習スポーツ課とスポーツ協会が協力して把握しておくことも今後に生かせるのではなかろうか。／巢籠もりからの解放に伴い、より多くの活動が生まれることを考え、ニーズの掘り起こしとともに利用団体の精査及び新規団体の確保を図ってもらいたい。